

## GCOE スイス出張報告

出張期間：2013年3月17日(日)～23日(土)、(スイス滞在は19日～22日)

場 所：スイス チューリッヒ工科大学(ETH)

出張者：総合研究機構 火災科学センター 池田 憲一

目 的：GCOEで作成したハンドブックをヨーロッパへ紹介する。

同ハンドブックの耐火部分の内容についての議論

### 概 要：

スイスの名門工科大学であるスイス チューリッヒ工科大学(ETH)で建築構造・耐火構造の教鞭をとっている Dr. Mario Fontana 教授を訪問し、GCOE で作成したハンドブック (The TUS Handbook of Fire Safety Design of Building and Urban City) を紹介し、GCOEをはじめとする TUS の活動を紹介した。また、同ハンドブックの耐火部分をその場で確認していただき、意見を頂いた。

### ハンドブックに対する Dr. Mario Fontana 教授の意見：

耐火構造の考え方がよくまとめられている。概念の構成については全く同感である。一部 ISOTC92SC4 で UK の Brian Kirby 氏が提案している「材料・部材・サブストラクチャー・架構」という概念は、コンピューターの能力が低い時代のもので、現在では、サブストラクチャーのカテゴリーは不要と考えられる。従って、同ハンドブックのサブストラクチャーの無い「材料・部材・架構」という概念が普遍であると考えてよいと思う

### 所 感：

訪問にあたって1時間程度の特別講義を依頼されて実施した。視聴者は同教授の学生や OB など 30名ほどであったが、講義後も個別の質問が多くなされ好評であった。また、訪問期間中に同大学の実験施設を視察した。木やコンクリートの耐火試験体があり、多くの耐火実験が実施・計画されているとのことであった。

今後は耐火構造の分野で連絡を取り合い、両大学の耐火の研究分野の発展を望みたいとの意見で一致した。



ハンドブックを持つ Dr. Mario Fontana 教授(左)と出張者(池田)